

対談

守創 破

島根半島の西部、日本海からほど近い場所に鎮座し、年間600万人を超える参拝客が訪れる出雲大社。その「縁結び」信仰の由来は何か？ 時代とともに「遷宮」を繰り返す意義はどこにあるか。出雲大社の祭祀に仕える千家和比古権宮司と、出雲出身の布野幸利審議委員が、神話を読み解きながら古代ロマンに満ちた大社の歴史を振り返りつつ、時代を経ても変わらぬ使命に話が及んだ。



日本銀行政策委員会 審議委員

布野幸利

Yukitoshi Funo

1947年島根県出雲市生まれ。島根県立大社高校卒業。神戸大学経営学部卒業。米国コロンビア大学経営大学院(MBA)修了。2000年トヨタ自動車(株)取締役、03年米国トヨタ自動車販売(株)社長、05年同社会長、06年トヨタモーターノースアメリカ(株)取締役会長を経て、09年トヨタ自動車(株)代表取締役副社長に。13年、(株)国際経済研究所代表取締役就任。15年より日本銀行政策委員会審議委員。



出雲大社権宮司

千家和比古

Yoshihiko Senge

1950年島根県出雲市生まれ。島根県立大社高校卒業。國學院大學大学院文学研究科(日本史考古学専攻)修士課程修了。國學院高等学校教諭を経て、85年から出雲大社に奉職。現在、権宮司。千家家は出雲大社の祭神である大国主大神に仕え、大社の祭祀を担う出雲国造を代々勤めている家系である。共著に『出雲大社 日本の神祭りの源流』(終風舎)、『古代を考える出雲』(吉川弘文館)などがある。

古代の神々が現代に息づく 「出雲大社」の悠久なる信仰

本殿境内から出土した
四世紀後半の祭祀具

布野 千家家は代々、出雲大社の宮司職を務めてこられました。権宮司は古代史にも造詣が深く、いらっしゃいます。お家柄の関係かなと想像しますが、どういう経緯で古代史に関心を持つようになったのでしょうか。

千家 小さい頃、父から「大きくなったら神主になるか」と聞かれたとき、三人の男兄弟の中で私だけが「はい、なります」と、訳も分からず調子のいいことを言っただけです。記憶にないのですが(笑)。ところが、大学進路で迷いました。父に相談したところ、「回り道もいい経験だ。学問にもいろいろある」と、一冊の本を与えてくれました。「祭祀考古学」の本でした。勉学の道を教えてくれました。育った環境でしょうか、もと歴史には興味があり、歴史学を専攻しようと決めたのです。そしてその父がくれた本に影響されたのか、大学では考古学を専攻し、各地の発掘調査に参加しました。それが古代への扉を開けました。

卒業後しばらく教員生活をしていたのですが、やはり父祖の道にと再び大学に通い神道学を学び出雲大社に勤めました。そこで、とくに神話伝承などと絡みながらの古代史への関心も深まっていきました。しかし、出雲大社は古代だけのではなく、現代に至るそれぞれの歴史過程の中でさまざまな歴史的役割を担って存在し続けているわけですから、古代を中心としながらも現代に至る歴史の営みを探ることで、歴史全体を見通す目も養われたように思います。

布野 私も出雲の生まれなので、歴史に興味を持っています。出雲大社は『古事記』『出雲国風土記』にも出てくる非常に古い神社ですが、れども、起源はどのくらいまでさかのぼることができるでしょうか。
千家 二〇〇〇年に出雲大社の境内から巨大な柱が出土して、古代の高層神殿が歴史的に実証されたと全国紙の一面を飾り話題になりました。実はその時、もう一つの重要な発見がありました。巨大柱とは真逆の小さな祭祀用の玉類です。赤メノウの勾玉、そしてちくわを輪切りにしたような

滑石製の白玉という極めて小さな玉で、形態から四世紀後半の祭祀具でした。それが出土したことで、少なくとも四世紀後半には出雲大社の境内地で神祭りが行われていたことが明らかになったのです。こうした滑石製の祭祀具は中央政府（大和朝廷）が発信展開したのですが、四世紀後半段階での出土例は全国的に限られていません。茨城県の鹿島、千葉県の香取、安房、福岡県の宗像沖ノ島、そして出雲大社など数カ所に点的に存在しているくらいありません。

日本の神々を大まかに区分すると、神話的には「天」を故郷・出自とする天津神のグループと、「地」を故郷・出自とする国津神のグループがあります。天津神とは中央権力と内部的にそれを支え連なる有力豪族関係の神々。一方で国津神は地域の地主的な土着的な神々です。面白いのは、こうした四世紀後半の祭祀具が出土した所のお社の祭神は、出雲大社を除けばどこも天津神の系統、つまり中央権力に内部的に関わる神であることです。五世紀になるとこうした祭祀具は全国的に広く展開し

ますが、出雲大社の出土はそれ以前です。『古事記』の神話で出雲に関する話はおよそ五分の二を占めますが、そうした神話上のみならず歴史的にも出雲大社が古くから国津神の中心格として重要視されていたことがわかってきました。

練を受けられる話があります。大国主大神は、須佐之男命の娘神の須勢理毘売に助けられながら試練を乗り越えられていけます。実はそこまで神名はオオナムチというお名前だったのですが、ついに須佐之男命はオオナムチに向かって「わが娘・須勢理毘売を正妻とし、大国主」となつて国づくり

千家 そうですね。境内の外、東へ二〇〇メートルのところ

に励め」と呼びかけられます。

主社という出雲大社の関係社があります。そこでは二〇〇〇年前の祭祀遺物が出土していますので、その頃から広く境内を含む一帯が聖地として認識されていた状況がうかがえます。

そこで、はじめて大国主大神と出掛けられ女神たちと結ばれます。これは歴史的には出雲を中心とする地域連合の様相を神話として語ったものですが、とうとう須勢理毘売が嫉妬を起こされたため、大国主大神は「もう出かけるのはやめ、これからは妻・須勢理毘売とずっと一緒にいる」と言われ、そして契りの酒盃を交わして互いに手をかけ合っている、今も出雲大社に鎮まられている、という強い絆が縁結びの最も古い伝承です。

「縁結び」の二つの由来と「遷宮」で初めに返る苦勞

布野 出雲大社は「縁結びの神社」として有名ですが、出雲大社と縁結びにどういいうわれがあるのでしようか。

もう一つ、いわゆる「国譲り」の神話も縁結びにつながります。大国主大神は地上の国づくりをされましたが、やがて天津神グループ

千家 まず一つに祭神の大国主大神にまつわるロマンス伝承があります。『古事記』の出雲神話の中に、大国主大神が須佐之男命の治める世界を訪ねられ、数々の試

プの中心の天照大神からその国を譲るよう言われ承諾されます。これは歴史的には地上の行政権を中央の政治権力に譲渡することを意味します。一方、大国主大神は神々の世界を治められることになりました。大国主大神側からは「国譲り」、天津神側からは「神譲り」になるわけです。縁結びは見えない糸で結ばれ云々とよく言いますが、見えない糸の縁結びこそ神の仕業として大国主大神の治められる見えざる神々の世界の出来事で、その象徴的中心が神譲りされた大国主大神ということになります。旧暦十月は通常、「神無月」と言われますが、全国の神様がこの時期に集まられるという出雲では「神在月」と呼びます。見えな

い糸の縁結びを行う「出雲大会議」が、神々の世界を治められる大国主大神のもとで行われるという縁結び信仰につながります。

布野 二〇〇八年から今年（二〇一九）の三月まで「平成の大遷宮」が行われ、出雲大社は建物などが修造されました。遷宮の意義やご苦労についてお聞かせください。

この六〇年に一回というのは、技術の伝承という面で非常に難し

いところがあります。伊勢神宮は二〇年に一回ですから人生時間の中でノウハウが経験蓄積できます。しかし出雲大社の場合は人生時間の中で遷宮に出会えるか不明です。記録はありますが、記録の「行間」にある現場感覚をつかむには難しいものがあります。

例えば、屋根は檜皮で葺き上げますが、出雲大社の本殿は大きいですが、長さ四尺（約一・二メートル）のものが使用されます。ほかの神社仏閣では檜皮は長くてもその半分程度。四尺という規格外のものを使った経験のある檜皮葺き職人は、今回の場合、六〇年前の遷宮に従事した方になります。現場に原寸大の模型を設け、職人さんたちが試し葺きの訓練を重ねて本作業に入りました。

ヒスイや管玉が物語る 日本海文化圏との交流

布野 『古事記』の神話によると、大国主大神は正妻の須勢理毘売をはじめ、九州・宗像の多紀理毘売、山陰・因幡の八上比売、北陸・高志の沼河比売など多くの妻を持ち

ます。これは「国造り」を通じて出雲は各地と交流があったということ伝えていと思うんです。

千家 かつて、出雲大社はラグーン（潟湖）のほとりに位置しました。八世紀に編さんされた『出雲国風土記』では神門水海という名前前で出てきますが、大きな汽水湖（注1）で、天然の港の役割を果たしていました。九州と北陸の日本海沿岸航路の結節点にあたります。日本海や河川を通して各地へ船で移動する人の交流が古くからあったのです。

交流の際、人々の頭の中には情報があり、手には技術があり、船には物を積みます。そうした中で、日本海文化圏の一大拠点として出雲は存在性を高めていくわけです。先に、出雲大社の命主社で祭祀遺物が出土したとお話ししましたが、一つは新潟県糸魚川市を流れる日本海に注ぐ姫川の渓谷で産出するヒスイの勾玉、一つは北部九州産の青銅製の戈で、ご例示の神話伝承を裏書きするような、九州から、北陸からという往来交流を示す明瞭な物証でもあります。

また、この関東でも、埼玉で古

（注1）汽水湖／淡水中に海水が浸入している湖沼。



墳時代前期の出雲の特徴的な土器

である鼓形器台と、出雲的技法の管玉(注2)が出土しています。こ

の管玉は碧玉(へきぎよく)の産地に近く、古代

で著名な出雲の玉造温泉の一角で

つくられていました。日本のほか

の地域では両側から穴を穿ちます

が、出雲は片側からうまく穴を開

けてつくるなど技術的にも特異な

ものでした。さらに面白いことに

埼玉には出雲系の古い神社もあり

ます。

布野 玉作りという最先端の技術

を持った人々が、出雲から関東に

移動していったのですね。出雲が

交流の起点となっていた様子があ

います。年間参拝者数はどれくら

いですか。

千家 六〇〇万人台で推移してい

ます。最近はお参りの方々の生の声

を聞くのと、よく境内現場に出て歩

いているのですが、東アジア地域

からお越しになる方々も多いです

ね。欧州地域はまだ少ない印象で

す。

布野 山陰地方もいろいろな観光

スポットがあるとはいえ、やはり

出雲大社のブランド力、吸引力は

強いと思います。地元で観光に携

わる方々と、出雲大社ほどのよう

な形で連携していますか。

千家 明治時代当初、地元の大社

組織が結成されて積極的に活動を

されてもいますが、一過性の遷宮

効果ではなく深く根をはったもの

にと、広くさまざまな方面の方々

と協力し合い、「点」ではなく「線」

になるよう努めています。そこで

重要なのは地元だけでなく、外部

からの積極的な参加や声です。そ

うした新しい力、発想を導入する

ことでも出雲の活性化を進められ

たら良いですね。

布野 現在の神門通りでは、私が

育ったころから商売を続けておら

れるお店もありますが、新しく来て

事業をやっておられるところが増

えていますね。新しい波が届いてい

前近代までは基本的に農事暦に

沿ってお祭りが構成されてきまし

たが、近代に入り産業構造は変容

し、高度成長以降さらに顕著です。

出雲大社の神(かみありさい)在祭(いなき)も昔どおりの奉

仕ではありません。稲佐の浜での

神迎え神事は、一昔前はひそやかに

行われていましたが、今では全

国から約一万人の方々がさまざま

な縁結びを求めて、夜陰の浜辺に

参列される中で奉仕しています。

布野 私が子どものころ、神迎え

の夜は家を出てはいけないうとか、

テレビもつけてはいけないうとい

ことで、ひっそりしていました。

神職の方々だけが稲佐の浜で神事

(注2) 管玉/円柱状の玉で、穿った穴に糸を通し複数

数を連結して腕飾りや首飾りなどに用いる。